

第2回大山崎町上下水道事業審議会 会 議 録

日 時：令和6年12月6日（金）午後1時30分～3時20分

会 場：大山崎町役場 3階中会議室

出席者：委員7名（オンライン出席者1名）

西谷会長・佐藤副会長・佐々谷委員・清水委員・藤原委員・細井委員・吉川委員
事務局（環境事業部長・上下水道課長・上下水道課参事・業務、府営水道係リー
ダー・上水道係リーダー・業務、府営水道係）

傍聴者：2名、報道機関2名

1. 開 会（省略）

2. 議 題

（1）水道事業の整備計画案について（別紙、第2回審議会資料参照）

（2）下水道事業の整備計画案について（別紙、第2回審議会資料参照）

各議題について、事務局から説明後の議事は以下のとおり。

発言者	内 容
事務局	水道事業の整備計画案説明（省略）
会 長	たくさんの情報があり、全体像を理解するのは難しいかもしれませんが、20ページ目のまとめが最もわかりやすいと思います。昭和時代に建設された水道設備は経年劣化が進み、その間に人口動態も変化してきました。それに伴い今後の対策について検討されているという状況です。もしご意見や質問があれば、または不明な点があれば発言いただければと思いますがいかがでしょうか。
委 員	早稲田配水池と稲葉配水池を統合し、二つの配水池を一つにして、新しい配水池を設置するというイメージですか。例えば稲葉配水池の場所に大きめの配水池を設置し、それを鳥居前と合わせて必要な容量を確保するというような理解でよろしいでしょうか。

事務局	<p>鳥居前配水池については更新用の土地が施設内にあったため更新が可能でしたが、稲葉配水池と早稲田配水池については面積に余裕があるものの高低差があるため、新たに布設し更新するのが難しい状況です。そのため、新しい土地の取得などを含めた課題を検討しているところです。</p>
委員	<p>場所も含めてこれから検討されるということによろしいでしょうか。高低差あるので、あまり高いところに設置すると減圧のようなことが必要になってくる可能性があると思います</p> <p>2点目は、管路で、送水管や配水本管の更新が特に重要であり、特に送水管の耐震化が重要とされていますが、その耐震化率は低い状況です。特に18ページ目にある仏生田第2受水場から配水池までの区間を優先的に耐震化されたいと思いますが、その距離はどれぐらいになりますか。</p>
事務局	<p>送水管に関しましては、11ページに示しておりますとおり、送水管では耐震管が2,895m、非耐震が1,548m、合計4,443mになっており、仏生田から鳥居前が、約1km程度で早稲田、稲葉に関しましても、1kmもしくは1.5km程度と考えております。</p>
委員	<p>はい、わかりました。これからどの区間の何kmを何年で優先的にしていくのかというのは非常に重要なポイントだと思いますので、また進めば教えていただけたらと思います。</p>
会長	<p>今日は整備計画についてお聞きして具体的な案というところまでは入らないというような理解でよろしいですか。まず情報共有していただいて、現状の思いを発言していただければと思います。</p>
副会長	<p>20ページの一覧表の中で、この中でも優先順位がもしあれば教えていただけますでしょうか。ここは絶対しないといけないけどここにはこういう選択肢があるっていうような、そういう可能性を教えてください。</p>

事務局	<p>大山崎町の考えとしては、配水池の耐震化をまず進めていこうと考えています。</p> <p>鳥居前配水池の耐震化が昨年行われ、それにより耐震化率が 0%から 33%に向上しました。地震時には水をためる場所としての役割が重要で、耐震化によって住民への配水が可能になります。配水池の耐震化を優先して進める計画です。</p>
副会長	<p>配水池の仲山配水池というのは、これは統合したりとかでカバーすることはできないので、これを必ず単独で更新しなければいけないと考えてよろしいですか。</p>
事務局	<p>仲山配水池は他の配水池が約 1000 立方mであるのに対し、非常に小型の 50 立方mです。この配水池が存在する理由は、大山崎山荘の近くに位置し、他の配水池からの水を送るには適さない高さのため、補助的に整備されています。将来的には、加圧施設を利用した給水方法や、仲山配水池自体を更新するといった選択肢もありますが、具体的な方向性は未定です。</p>
副会長	<p>はい。ありがとうございました。</p>
会 長	<p>今説明いただいた内容は、課題があるという内容が主であり、課題が見えている以上は、優先度などを設定してそれに取り組むことが必要という主旨だと思います。課題は基本的に経年劣化と耐震ということで、それに対して予算・優先度を決めて取り組んでいくことになると思います。もしご質問があれば、後でも承りますので、一旦下水道の方に話を進めていただいてもよろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>下水道事業の整備計画案説明（省略）</p>
会 長	<p>下水道について今の課題と方針について、その 1 その 2 のどちらにするかを明示されておりませんが、今回の審議会で決定するようなことではなく、ご意見を賜れば、次回以降で具体的に話していくということで、今回については情報を共有していただいて、課題にはこうい</p>

	<p>うことがあるんだと、解決のやり方としては予算優先なのか、健全度優先なのかということをご共有いただきました。</p> <p>わからないところ、或いはちょっともうちょっと知っておきたいというところがあれば教えていただければと思うんですがいかがでしょうか。例えばスパンという言葉はご存じですか。</p>
委 員	<p>教えていただいていいですか。</p>
会 長	<p>スパンについて説明していただけますか。</p>
事務局	<p>下水道管路施設のスパンと呼称については、マンホールからマンホールの間をスパンと呼んでおります。よって、マンホールからマンホールさらに次のマンホールまでで2つの区間がある場合はツースパンといいます。</p>
会 長	<p>前回の説明では、水道は黒字だが下水道は企業の節水により赤字であることが示されておりました。雨水は2ヶ所の雨水排水ポンプ場から川に流れ、汚水は中継ポンプ場で洛西浄化センターに上げて京都府で処理されていますが、その際の料金は大山崎町が負担しているということです。下水道の耐震性の問題は水道より少ないものの、50年以上経過した管路の更新が課題となっており、この問題への対応には、予算を重視しながら支出を均等化するケース2と、健全度を重視し支出が不均一になるケース1の選択肢が提示されています。大山崎町としてはケース2が好ましいと考えられていますが、どちらがいいかということも含めて、ご意見などいただければと思います。</p>
委 員	<p>健全度という意味を教えてくださいたいんですが、ケース2の場合だと、ケース1に比べて低いですが、その場合はどんな状態を意味するのか、どういうリスクが発生すると考えられるのかをお聞かせいただけますでしょうか。</p>
事務局	<p>この健全度というのは、単純に耐用年数を超えているという意味合</p>

	<p>いです。管路施設では、耐用年数を超えていますと、使用環境にもよりますが放置できない状態になっている可能性が高いと予測できます。ポンプ場の電気機械設備では、ずっと稼働しているような機械設備ですと、摩耗等で、修繕や補修、抜本的な取替が発生します。よって、機械的にそれぞれの耐用年数を当てはめてグラフ化したものを健全度の指標としています。</p>
委員	<p>もしリスクが現実的なものになってしまったときの対応を考えたとしても、やはりケース2の方が経済性の観点では、大きく丸がつくというふうに理解したらよろしいですね。</p>
事務局	<p>はい、耐用年数は参考にしつつ、でもそれに頼りきることはなく、管路施設でも、動画で管路状況を内部から確認する調査を進めております。ポンプ場につきましてもメンテナンスを入れて機器の状況を把握しておりますので、一定健全度を保ちつつ、日々の点検や確認を踏まえて、健全度を維持して、事業費も平準化していくといったような計画としてケース2を挙げさせてもらっています。</p>
委員	<p>ポンプ場の更新のところで平準化したものと耐用年数で更新した場合で、累積が2倍近く違う計算になっています。平準化したとしても、2倍ほどの金額が出てくるとは思えないんですが、どうでしょうか。</p>
会長	<p>委員の皆さんに30ページ見ていただいてよろしいでしょうか。</p>
委員	<p>ポンプ施設のところでケース1で赤字のところの括弧の中で50年累積で例えばポンプ施設が180億円で、ケース2の平準化で50年実績が73億円。半分以下になっておりますが、どういこうことなのか教えていただけたらと思います。</p>
事務局	<p>大山崎町の排水ポンプ場は、大山崎排水ポンプ場、下植野排水ポンプ場とありますが、普段の日常は特にポンプ施設が稼働することはございません。雨が降らなければ稼働せず、災害時に稼働するので、耐用年数だけで更新等を考えずに、当然維持管理を適正にしていくとい</p>

	<p>うのが前提ですが、施設の寿命を伸ばして、適切な維持管理をすれば、ケース 2 のような長く使っていけるという環境が生まれると考えております。</p>
会 長	<p>30 ページのケース 1 の桁が間違っていると思いますがどうでしょうか。</p>
事務局	<p>管路施設のところの 9.62 億円というのは 96.2 億円の間違いです、申し訳ありません。</p>
会 長	<p>277 億円と 146 億円の倍ぐらいの差が出ている、その合計の数字は間違っていないということによろしいですね。</p>
委 員	<p>次回以降の資料で、汚水と雨水を分けて説明いただければと思います。基本的に汚水は私費の下水道使用料で回収するという形になりますけれども、雨水は公費負担ですので、雨水の部分は一般会計からの繰入があるため、経営という意味で分けて考えていただけたらと思います。</p> <p>施設でも、どの施設が汚水でどの施設が雨水であるかというところを少し明記していただけたら理解しやすいと思いますので、よろしくお願いします。</p>
事務局	<p>大山崎町の下水道事業に関しては、令和 5 年度から公営企業会計を適用し、会計上で汚水事業と雨水事業を明確に区分できるようにしていますが、過去のストックマネジメント計画等では一部で汚水と雨水が混在していたため、投資計画にはその影響が残っています。</p> <p>しかし、今後の経営戦略等の審議に際しては、汚水と雨水を基本的に区別し、投資計画もそれに従って分けた形で検討していきたいと考えています。</p>
委 員	<p>下水道使用料が上がるということになりますか。</p>

事務局	<p>現状の収支状況から考えますと、下水道事業を維持していくためには、使用料を上げざる得ないということです。</p> <p>企業会計の原則として、水道は水道料金で、下水道は下水道使用料で運営すべきとされていますが、現状では低額料金の維持と施設の整備・更新に対応するため、一般会計の財源を投入して事業運営しています。これを水道料金や下水道使用料だけの運営を目指すならば、必然的に料金の引き上げが見込まれ、これを検討する必要があります。</p> <p>今後、委員の皆様の議論と意見を基に複数の案を作成し、最終的に町長が判断することになりますが、事務局としても委員の意見を考慮した最良の案を町長に説明したいと考えております。</p>
委員	<p>テレビなどでも水道料金が20%上がるなどの報道もあり、そこは審議していかないと駄目かなと思います。</p>
委員	<p>ケース1の場合とケース2の場合でも、どちらにおいても料金が上がっていくということですか。</p>
事務局	<p>ここで示されているケースについて、委員の質問に対しては、料金が上がる可能性が高いと考えています。しかし、一般会計からの繰入額次第で料金が下がるということもあります。ただし、一般会計は税金を原資としており、その使い道には高齢者福祉や子育て支援など他の選択肢も存在します。こうした背景の中で、水道料金や下水道使用料を維持する又は下げることに税金を使うのが適切かどうかを含めて、今後ご議論いただけたらと思います。</p>
委員	<p>料金が上がらないっていうのを町民として目指していただきたいです。</p>
事務局	<p>委員のおっしゃるように料金が上がらないように努力はするものの、施設整備の50年計画を100年に引き延ばすかななどの議論が</p>

	<p>必要であり、能登半島地震の復旧等の話を聞いたりする中で、災害時の迅速な復旧を考慮するためにも、管路の更新や配水池の整備が必要であると国の方も見解を述べておりますので、そういった観点でもご議論をいただきたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>ありがとうございました。両輪で考えていかないといけないということが分かりました。</p>
<p>会長</p>	<p>ここまでの話をまとめますと、雨水の処理は税金で整備するべきで、汚水は利用者負担が原則です。下水道の維持・更新には費用がかかり、現状では赤字のため一般会計からお金を投入していますが、このお金は教育や福祉に使えたはずのものであり、やはり下水道の汚水事業の維持にかかるお金は下水道使用料などで賄う必要があるということです。</p> <p>今後、施設の老朽化に伴い更新が必要となり、そのための資金をどのように確保するかも課題です。下水道使用料は京都府下で最も安く設定されていますが、企業の節水等で使用量収入が減少しており、使用料の見直しをする場合は、他市町の水準に合わせるなどが考えられます。</p> <p>本審議会での意見を町長とのコミュニケーションを通じて議会に持ち込み、最終的な決定は議会が行うこととなります。</p>
<p>委員</p>	<p>補足ですが現在、下水道の更新に関しては、更新費用が工面できない場合に、50年から100年に延ばすことが検討されていますが、これはリスクがあると言われていています。特に道路の陥没が起こった場合、下水道の劣化が一因とされており、下水道だけでなく道路などのインフラ保護も考慮して、国や県の補助金を利用しつつ、カメラによる検査や劣化診断で優先度をつけたメンテナンスが必要になってきます。</p> <p>しかし近年は、物価や人件費の高騰により工事費用が増加しており、下水処理のための電気代も上がり、京都府が市町へ請求する処理代も増加しており、市町村の財政が厳しくなるというのが全国でおこっています。このような状況で、誰がどこまで費用を負担すべきかという</p>

	<p>ことになります。当然個人の方は安ければいいよねということになりますが、その場合のリスクをどこまで許容できるのかということが、社会的な大きな課題かなと思っています。</p>
会 長	<p>更に補足させていただきますと、世代間の公平性という観点もありまして、料金を値上げせずに借金で工事して賄っていくということになりますと、その借金を返済していくのは後の世代ということになります。</p> <p>これから少子化がより進んでいく中で、過去にもう少し高い料金を取っていれば、後の世代の一人当たりの値上げによる負担額が少なくなっただけなのにとということになります。</p> <p>過去に遡って料金を徴収できない以上、現在と未来のバランスをどうとっていくかということです。</p> <p>もう最後の方の話になったので、上水道も含めて、何かコメント或いは質問、改めて気づいたことなんかがあればいただければと思います。</p>
委 員	<p>上下水道ともに耐震化を優先して工事を実施しているのか教えてくださいたいです。</p>
事務局	<p>上水と下水の耐震化計画については、本年度、上下水一体となった方針を策定する動きがあり、避難所を中心に重要施設や、上水道の配水池、下水処理場といった急所施設を重点的に取り上げる予定です。しかし、重要施設ほど規模が大きく、整備計画の具体的な実施は来年になる見通しであり、今年度は計画を策定するという考えであります。</p>
委 員	<p>もし料金を上げる場合も、耐震化などに特化して頑張っているんだっていうのを打ち出されたら住民も納得いくと思うので、よろしくをお願いします。</p>
会 長	<p>今のご質問のところで断層との関係についてはいかがですか。</p>

事務局	<p>高槻花折断層や南海トラフに対する懸念はありますが、地震が発生した際には断層そのものよりも、住民がいち早く水道や下水道を利用できるようにすることを重要視しており、国からの通知を受け、急所施設に関する計画を今後進めていく予定です。</p>
会長	<p>あとは、大山崎は川の横に位置しているため、浸水被害の懸念があります。看板によると浸水は最大で3メートル程度になる可能性があり、住宅や施設への影響を防ぐために優先順位をつけて対策を講じる必要があります。一方で、重要施設についての議論では、小学校や中学校、役場、ふるさとセンターが挙げられているが、他に重要な施設などございませんか。</p>
委員	<p>公園とかはどうでしょうか。</p>
事務局	<p>防災計画では、公園はすべての公園ではありませんが、一時避難所と位置付けられています。一時避難所である公園からそれぞれの避難所へ移動する防災計画がありますが、今回の耐震化整備において公園は対象外です。上下水道施設の耐震化が進められ、避難時の生活に必要なインフラが整備される中で、公園にはお手洗いなどがありますが、現時点では包括的な対策箇所には含まれていません。</p>
委員	<p>火事があった場合に、水道がある公園で水が使えたらいいなと思ったのですが。</p>
事務局	<p>基本的に火事が発生した場合、消防による消火活動は防火水槽に溜めた水を使用することを想定しており、公園の散水設備を消火活動に用いることは想定しておりません。</p>
委員	<p>補足ですが水道施設を設計する際には、消火用の水量を考慮して設計することが要求されており、防火水槽や消火栓から水を供給して消火活動を計画する必要があります。これに加えて、消防法に基づく消火用水の供給計画が公園などさまざまな場所で考慮されていることに</p>

	<p>なります。</p> <p>ただし、実際に災害・火災が発生した場合の対応は、複雑になり難しいところです。</p>
委員	<p>消防車が来れない場合は、公園の水が使えたらいいと思うのですがどうでしょうか。</p>
委員	<p>災害が起こると難しいのが、電力が止まる場合があります。電力が止まると、水道水がつかれない、もしくは送れないということが起こる場合があるので災害の後の火事っていうのは消火活動が非常に大変になる場合があります。</p>
会長	<p>では今回、ケース 1・ケース 2 をこの場で審議して決定することではないということでしょうか。ですので、このような選択肢があり、例えば下水道使用料の見直しがあった場合には、下水道使用料見直しを最低限で抑えるためにはこういう選択肢があり、借金で賄うのはこれぐらいなどの議論していくという段階が、今後出てくるかとは思いますが。</p> <p>ですので、今日は方向性と選択肢があり、課題があり、上水道に関しては、課題がたくさんあり、それは全部お金がかかるということです。</p> <p>現状水道は（単年度は）黒字で何とかやれているというところで、むしろ下水道の方はもうすでに（基準外繰出がなければ）赤字にはなっていますので、雨水と汚水ちゃんと区別しながらになりますけれども、その赤字については何かしら補填をしないといけないというご提案だったと思います。</p> <p>何もなければこれで閉会としたいと思います。ありがとうございました。</p> <p>(なし)</p>

※ 発言者について、会長・副会長以外は委員と表記しています。

3. その他 なし
4. 閉 会 (省略)